

---

# 魔術師達の祭

朝寝坊太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔術師達の祭

### 【Nコード】

N7369Y

### 【作者名】

朝寝坊太郎

### 【あらすじ】

死にたくないから契約した。十二年後の入学した学園それは・・・魔術師たちのための学園だった。正一は、どうやって過ごすのか。

## プロローグ

十二年前、俺が4歳のころだ。  
両親と一緒に旅行に行った帰り事故にあった。  
死にそうになったその時、声が聞こえた

『生きたいか少年』

ぼくは、それに必死で頷く。

『ならば私と契約しろ。そうすれば助けてやる。その代わりにお前は、私の命令を聞け、私が殺せと言った者を・・・殺せ！』

ぼくは、他人を殺したくは無かった。だけど、生きたかった。とても生きたかった。だから・・・

「契約する。だから助けて！」

契約をした。

『力をやるう好きに使ってもかまわない。だが私の命令を聞け。絶対だ！』

あの契約の後俺は、病院にいた。両親は即死だったそうだ。特に何も無く、祖母に引き取られた。保険金を取るうとする親戚もいなかったし、逆に助けられた。唯一他の人と違うのは、

『正一西に3km行ったところに力のある魂がある。食べる』

魂を食う力と

「食ったよ」

『そうかなら良い、それと』

死神さんと話す力と、

『あれを殺せ』

「了解」

死神さんの殺すための力だ。

と、言っても俺はそんなに殺した事無いし、その上

『今殺した犬の影の魂も食え』

「はいはい」

ほとんど影のような物だし、

「うまい」

それなりにうまい。なぜこのような味がするなかは、不明だが多分死神さんと契約したためだと思う。

ちなみに死神さんは、最上位死神公・・・なんたらかんたらと言っらしい。ちなみに聞き取れなかったのは、俺がふざけていたからではないらしい。魂の格が違いすぎて聞き取れないと言われた。魂を食うのは、俺の魂の格を上げるのにいいので食えと命令された。

『正一明日から夏休みが終わるがあの学園はおかしいから気をつけろ』

「具体的に言っと」

『魔力が濃い、濃すぎる。まるで魔術師がいて魔力を溜めているよ  
うだ』

「見つかるはず？」

『ああ。まずい、とてもまずい。精霊クラスや下級神の契約者でも  
かなりもてはやされているのに気をつけないとばれた時自分の陣営  
に入れようとされるか、自分の精霊や神の巫女などが劣っているの  
を認めないために最悪殺される』

「でもそれっていたらの話なんだろう。ばれないように気をつける  
しかないんじゃないか」

そう言うとき死神さんは何かを考え始めた。

『少なくとも隠蔽の魔術や結界の魔術は最低限覚えてもらう。命令  
だ』

死神さんは驚くことを言った

「死神さん魔術使えるのかよ！」

『まあ、それなりに使えはするが。必要なかつたしお前の魔力が低  
かったから意味が無かつたが、今はそれなりに魂を食ってあるから  
な。それより明日学園の寮に戻るんだ、お婆さんのために早く帰れ』  
「へーい」

そう言い俺はばあちゃんの家に戻った。

「ただいま」

「お帰り、風呂沸いてるよ」

「んじゃ入るよ。ありがとう」

「さっさと入っちゃいな、何か臭いよ」

「ひでえ」

と言いながら風呂に向かい死神さんに

「明日から楽しみだ」

といった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7369y/>

---

魔術師達の祭

2011年11月22日01時58分発行